

## アテヴェールの促進耐候性試験

### 【1】促進耐候性試験「キセノンウェザーメーター」について

キセノンウェザーメーター（以下XWOM）は、外壁材表面の耐久性を計る耐候性試験の一種で、短期間で塗膜が有する耐久性の目安を見ることが出来ます。

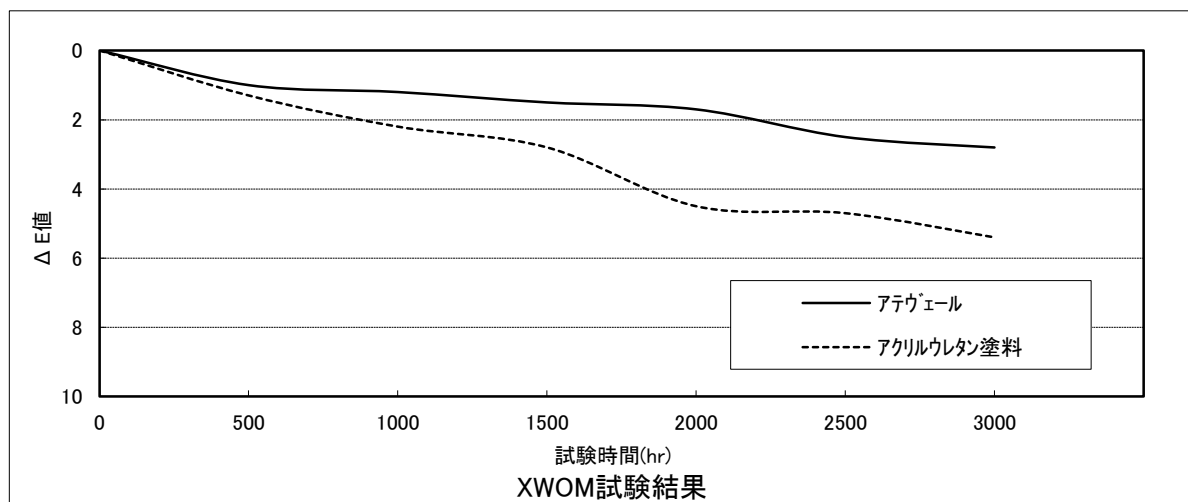
試験は光源から発生する光（熱）と散水のサイクルによって実際の気候を促進させた状況を作ります。試験時間の目安としては、XWOM300時間＝実際の1年に相当すると考えられており、例えば3000時間合格であれば約10年以上の耐久年数を示す計算になります。またJIS A 6909では、複層塗材や可とう型改修用仕上塗材の上塗塗料の耐候形分類として耐候型1種＝2500時間、耐候型2種＝1200時間、耐候型3種＝600時間と分類分けされていますが当社では3000hr合格を規格としております。

また下記のグラフは試験時間毎に塗膜の変色の程度を色差（ $\Delta E$ ）で示したものです。色差（ $\Delta E$ ）は未試験板（ブランク板）と試験時間毎の色差を数値で示したもので、以下は数値の見方の目安となります。当社の判定基準は3000時間で $\Delta E=5.0$ 以内としており、目視で塗膜に著しい変化が見られないこととしています。

#### $\Delta E$ 色差の見方

- $\Delta E$  0.5～1.5 ) 僅かに色が変化している。(一般的に目視では判定できない)
- $\Delta E$  1.5～3.0 ) 僅かに目立つほどに色が変化している。(目視で感じる程度)
- $\Delta E$  3.0～6.0 ) 感知するほどに色が変化している。(ほとんど目視により判別できる)
- $\Delta E$  6.0以上 ) 著しく色が変化している。

### 【2】アテヴェールの促進耐候性について



### 【3】注意事項など

- ①これらはあくまで目安と考えられている数値です。実際は建物の立地条件、施工部位（面）、下地の種類、汚染などの影響も加味されますので誤差が生じます
- ②塗膜の劣化は面により異なります。例えば南面や西面は日中、直射日光を受ける量が多く、将来的には表層からの劣化現象に繋がります。また北面は直射日光を受けない半面、日陰で高湿環境にさらされることも多く、カビや藻が発生しやすくなります。
- ③建物構造により同材料を施工しても劣化の進行に差異を生じる場合があります。
- ④局部的に紫外線の反射光が当たる部位はその部分だけ劣化が進行することがあります。  
(カーポートやエアコンの室外機周辺の塗膜)
- ⑤上記データは塗膜表面の劣化についてとなっております。当製品は厚膜であり、躯体保護の観点からはさらに長期の耐久性が期待できます。
- ⑥トップコート仕様  
トップコートを塗布することは塗膜の耐久性や耐汚染性を向上を目的としては有効です。  
※従って、条件により耐久性は前後いたしますが、試験データより目安として10～15年の耐久性としております。